

## 6. オンライン分科会 in 瀬戸市

創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) では、これまで地域ブロックごとに創造都市政策に取り組む（取り組みたい）自治体等が集まり、情報交換や交流を行う「ブロック別分科会」を実施してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、これまでどおりの会議・イベントの開催が難しくなっていることから、地域ブロックに関わらず、オンライン配信を前提とした分科会の開催に変更し、試行的に取り組む。

令和 2 年度は愛知県瀬戸市を開催都市としてオンライン分科会を開催した。愛知県瀬戸市の文化芸術拠点である瀬戸市文化センターでは、コロナ禍でも文化芸術を止めないよう、1,500 席のホールで 300 名限定のコンサートを開催する「ソーシャルディスタンス・ステージ」等の事業に取り組んでいる。しかし、人数制限による事業は収入の低下につながるため、今後の文化施設の活用を悩んでいる。

そこで、国内外の創造都市政策や文化施設の実態に詳しい株式会社ニッセイ基礎研究所の吉本光宏氏を招き、ウィズコロナ/ポストコロナ時代の文化施設や創造都市のあり方について意見交換を行った。

日 時	令和 3 年 3 月 8 日（月）14:00~15:30
会 場	オンライン（ZOOM） （事務局：瀬戸市）
主 催	瀬戸市
共 催	文化庁、創造都市ネットワーク日本
参加人数	19 人
次 第	・主催者挨拶 ／服部文孝氏（瀬戸市地域振興部参事） 岡崎浩典氏（瀬戸市地域振興部技師） ・講演「新型コロナと向き合う文化施設・創造都市の現在とこれから」 ／吉本 光宏氏（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長） ・講評 ／佐々木 雅幸氏（創造都市ネットワーク日本顧問）

### 【概要】

はじめに、文化庁及び瀬戸市からの開会挨拶後、瀬戸市 岡崎氏から「新型コロナと向き合う瀬戸市文化センター」と題した主催趣旨を説明した。1 年間、コロナ禍の中で事業を行い、①文化施設利用件数・来場者数の復興、②文化事業の継続という 2 つの課題を示した。

次に株式会社ニッセイ基礎研究所の吉本氏より「新型コロナと向き合う文化施設・創造都市の現在とこれから」と題した基調講演を行った。具体的には、①新型コロナウイルス感染拡大で芸術文化がどのような影響を受けたか、②その中で文化施設がどのような取り組みを行ってきたか、③新型コロナと創造都市への展望について説明した。

**(講演要旨)**

コロナ禍により「分断か、連帯か」が問われる時代において、創造都市は芸術文化の持つクリエイティビティを持って、色々な課題に向き合うことで次の時代を作ることが求められる。

こうした中において、「損失に対する緊急支援」「文化事業や文化施設の再スタートに対する支援」「ポストコロナの芸術のあるべき姿や表現の模索」「新型コロナで疲弊した社会の回復をアートから後押し」の4点から取り組むべきではないか。また、今後は地球規模の社会的課題と向き合うアートが出てくるのではないか。

最後に佐々木顧問より講評を行った。

**(講評要旨)**

これからのビヨンドコロナの時代では、これまでのような成長戦略を取ることが難しい中、量から質に向かって、文化の質や生活の質をいかに高めながら地球環境を保全していくかが問われる。



オンライン分科会の様子